

「環境共生の森」における環境学習プログラムについて

岸 功規¹・塚本 文²

¹九州地方整備局 国営海の中道海浜公園事務所 調査・品質確保課（〒811-0321 福岡市東区大字西戸崎 18-25）

²九州地方整備局 国営海の中道海浜公園事務所 調査・品質確保課（〒811-0321 福岡市東区大字西戸崎 18-25）

国営海の中道海浜公園は、北部九州地域の広域的なレクリエーション需要に対応するために、昭和56年に第一期開園した国営公園である。中でも、環境学習の拠点として現在整備中の「環境共生の森」は、森を一から創り育てる過程を通じ、自然環境と人との関係を継続的に学ぶことのできるエリアとする計画である。現在は、その開園に先立ち「タネからはじめる森づくり」として、ドングリのタネ拾い、苗づくり、植樹、森の管理を含めた環境学習プログラム、及びその指導・補助を行う人材養成プログラムを試行的に実施している。本論文は、「環境共生の森」の整備概要と運営計画目標について紹介した上で、現在進めている環境学習プログラムの試行的実施の中間報告を行うものである。

キーワード 国営海の中道海浜公園，環境共生の森，環境学習プログラム，人材養成プログラム

1. はじめに

(1)国営海の中道海浜公園の概要

国営海の中道海浜公園は、福岡市東区の博多湾と玄界灘を隔てる半島、通称「海の中道」の中央部約6kmの区間に位置する国営公園である。当公園は、九州北部の緑地計画の核として、また、当該地域を中心とした広域的なレクリエーション利用に供するため、昭和56年に第一期開園し、その後も順次整備を進め、都市計画決定面積約539haのうち、現在までに約249haを開園している。

(2)国営海の中道海浜公園と「環境共生の森」について 環境共生の推進・環境学習の場の提供は、今日の国営

公園の重要な役割である。国営海の中道海浜公園では、平成10年度に「環境共生計画」を策定し、公園内における環境共生の実践フィールド、及び環境学習フィールドの核として「環境共生の森」の整備に着手している。

「環境共生の森」は、公園区域の中央部に位置する広さ15.3haのエリアであり(図-1)、当公園における環境学習の拠点として位置づける計画である(表-1、写真-1)。

整備においては、植生・生態系の維持、多様性に配慮した潜在自然植生の森を基本としつつ、地域の里山林を導入し、その管理運営の中で、生態系や、自然と人との関わりについて学ぶ場を創出することを基本方針としている(図-2)。同時に、森を創り育てる過程も含めた環境学習プログラムの実施について計画している。

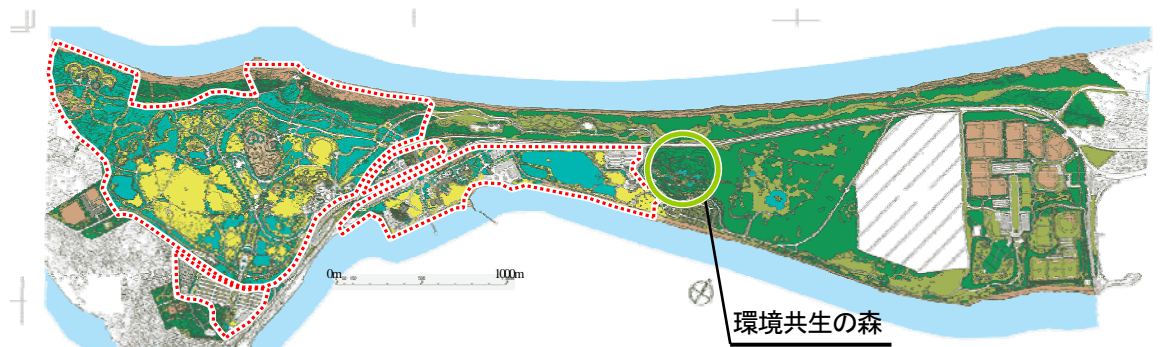


図-1 国営海の中道海浜公園と「環境共生の森」
 供用区域(H20 現在)

表-1 「環境共生の森」の整備と環境学習プログラム実施の経緯

実施年度	実施内容
平成 10	公園全体を対象とした「環境共生計画」策定
平成 13～17	基本設計・実施設計、森の育成管理の計画等を策定
平成 18	「環境共生の森」を中心とした環境学習プログラムの策定（環境学習プログラムの試行的実施を開始）
平成 19	環境学習プログラムを指導・補助する人材養成プログラムの策定（サポート・ボランティア募集と初級研修開始）
平成 20	継続的な運営手法や開園後のプログラム等について検討中
	「環境共生の森」開園（平成 22 年以降を予定）



写真-1 「環境共生の森」造成中の現況

2 「環境共生の森」における環境学習プログラムの概要

「環境共生の森」においては、森や水辺・畑などの多様な環境を生かした自然体験、生物観察、森の管理作業等の森や自然に関する体験学習のほか、昔遊びや地域行事の体験、農作物の育成、クラフト作り、ワークショップ等、様々な環境学習プログラムを展開する計画である。現在は、「環境共生の森」の開園に先立ち、福岡市内の小学校において、総合的な学習の時間や学習遠足等の時間を用いたどんぐりの成長観察のプログラムを試行的に行っている。また、環境学習プログラムの実行に際し、率先して企画・立案ができる人材が必要であることから、人材養成プログラムも平行して計画しており、現在はその中核となる「サポート・ボランティア」について、人材の募集と研修を試行的に行っている。

3 「環境共生の森」における環境学習プログラムの運営計画目標

当公園では、「環境共生の森」において展開する環境学習プログラムについて、以下の三点を運営計画目標として定めている。

(1) 森の育成・管理・成長を通じた環境学習プログラム

「環境共生の森」の環境学習プログラムは、森の育成段階や環境特性の変化・成長に応じ、常に進化・多様化させていくものとする。具体的には、植林や下草刈り、枝打ち、間伐等、季節や森の経年に応じた継続的な活動が考えられる。森の育成管理と環境学習プログラムに関する諸活動は、常に一体的に計画・実施され、蓄積されていくプログラムや運営ノウハウは、北部九州地域の環境学習活動に広く還元していくことを目指している。

(2) 学校教育と連携した環境学習プログラム

森の育成管理と一体化した環境学習プログラムと平行

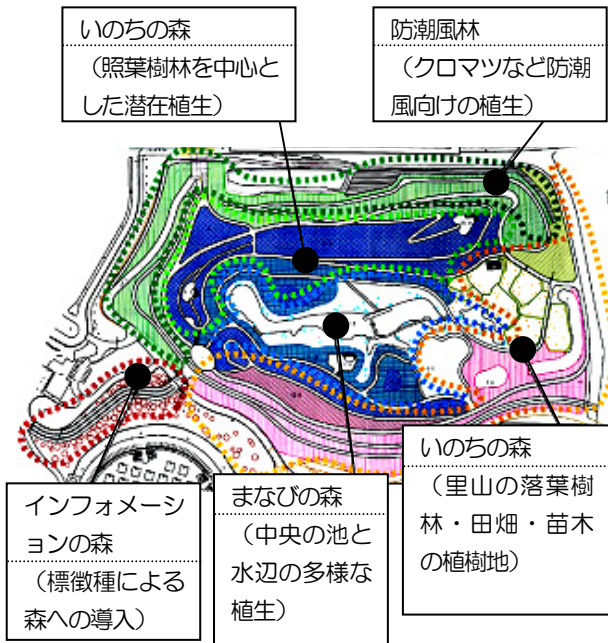


図-2 「環境共生の森」ゾーニング図

し、学校教育における総合的な学習の時間や学習遠足等を活用し、学校教育と連携したプログラムを展開する(図-3)。また、学校での教育内容・各教科内容に対応したプログラムの展開も目標としており、学習指導要領との整合性や、福岡市内の小学校で使用されている教科書の内容との連携も念頭において計画している。

めるが、森の成長に従って、徐々に市民の参画の機会やその責任の比重を大きくし、最終的には市民の主体的な活動が、運営の中核を担うことを目指す。

「環境共生の森」における環境学習プログラムの特徴的な点は、森林の育成と学校教育との連携である。これまでの国営公園における環境学習活動としては、一般来場者への自然ガイドや体験教室等が主であった。「環境共生の森」における長期的・継続的な学校教育との連携や、森林の育成管理との連携を前提にした環境学習プログラムの整備は、全国的にも新たな試みである。

(3) 市民との協働による環境学習プログラム

「環境共生の森」においては、公園側が計画したプログラムを一方向的に展開するのではなく、広く市民との協働によってその検討・実施を行う。

開園初期の段階では、公園側が中心になって計画を進

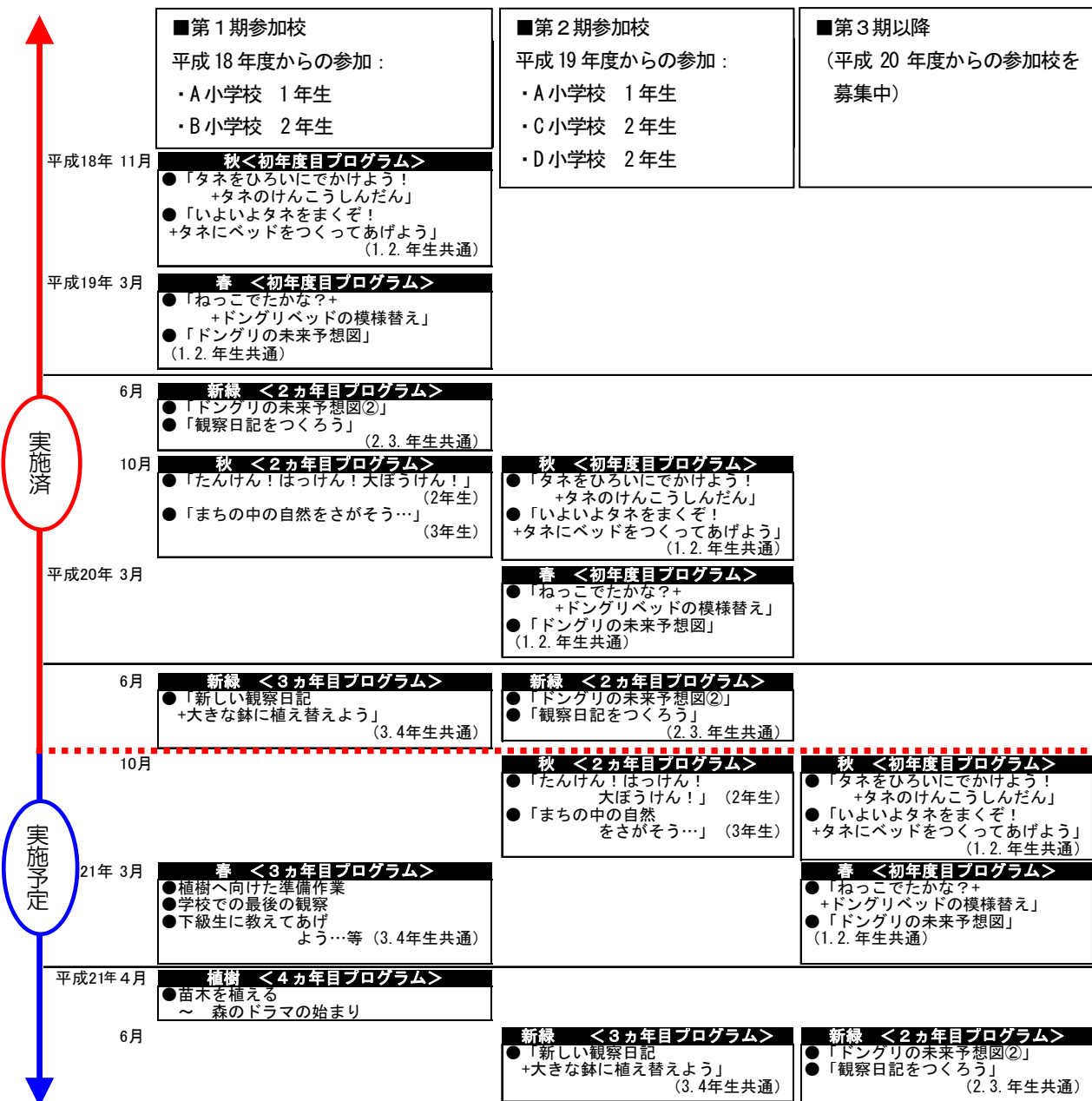


図-3 小学校と連携した環境学習プログラムの試行的実施の流れ(平成21年6月までの予定について)

4. 環境学習プログラムの内容と試行的実施

「環境共生の森」の開園に先立ち、当公園は平成18年度より福岡市内の小学校における環境学習プログラムを試行的に実施している。

このプログラムは、当公園内でのタネ拾いから開始し、校内での苗木の育成を経て、「環境共生の森」への植樹を含んだ一連の作業となり、活動を通じて植物の生育と自然への興味・関心を育むことを目的とすると同時に、実施を通じて環境学習プログラムの課題を抽出を試みるものである。

プログラムの開始に際し、当公園ではアンケート調査等の意見収集を行い、対象となる学校の要望や、環境学習に対する現状等について調査し、参加校を募集した。その結果、平成18年には地元の小学校2校の協力のもとプログラムを行うことができた。また、平成19年度には新たに2校の協力を得た。現在までに4校において、1年生から4年生までの児童を対象に、どんぐり拾いから苗木育成の初期段階までに関するプログラムを実施している(図-3、写真-2、写真-3)。これまでに、「秋のプログラム」として当公園内や近隣の地域でのタネ拾いとタネを小学校に持ち帰ってタネまきを行うプログラム、「春のプログラム」として、児童が自分でまいたタネの発根の観察を中心とするプログラム、「新緑のプログラム」として、苗木の成長観察を行うプログラム等を行っている。これらの実施にあたっては、それぞれ、対象とする学年等に応じて、紙芝居や道具でわかりやすく説明し、継続した観察を通じて児童の興味・関心をひく工夫を行っている。

この試行的実施においては、実作業を通じて、現場関係者の意見を収集し、今後の環境学習プログラムの改善につなげている。これまでも、説明手法や時間配分など、児童の学習の実情に合わせた要望などが出ており、これらは次年度のプログラムの内容へ反映させている。また、実施回数を重ねることで、学校との連絡体制・安全管理等の対策が強化されつつあり、各学校に応じたプログラムの実施手法へと生かされている。このように、環境学習プログラムの試行的実施については、その成果を具体的に計画へと反映させ、次の実施につなげている。

5. 環境学習を指導・補助するための人材養成プログラムの内容と試行的実施

当公園では、環境学習プログラムの検討・実施を含めた運営を、広く市民との協働によって行うことを目指しており、その実行に必要な人材を育成する人材養成プログラムを計画している。具体的な内容としては、サポート・ボランティアを含めた人材の募集、研修等の企画の運営、「環境共生の森」の活動に関する情報提供、ミー

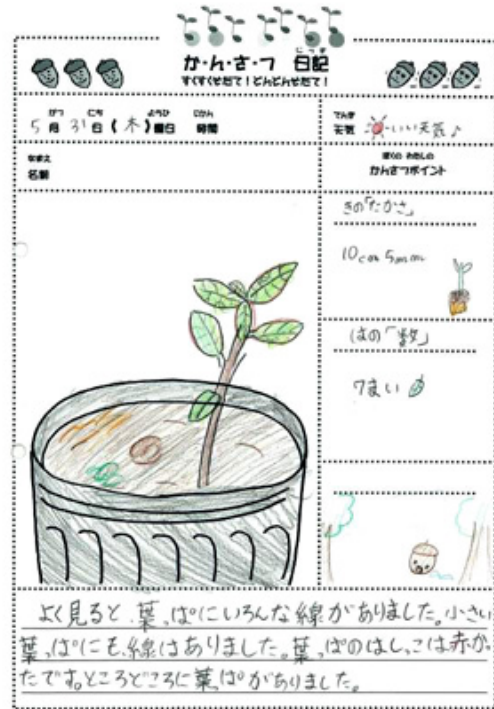


図-3 小学3年生が記録した観察日記
(新緑のプログラムにおける苗木の観察日記)



写真-2 環境学習プログラムの試行的実施①
「秋のプログラム」(紙芝居による活動前の説明)



写真-3 環境学習プログラムの試行的実施②
「新緑のプログラム」(苗木の観察日記作成)

ティングをはじめとした運営活動等が挙げられる。

当公園では、平成18年度より人材養成プログラムの策定を進めており、平成19年度よりサポート・ボランティアの募集を行っている。平成19年10月に、第1期のサポート・ボランティア募集と、希望者に対する初級研修を実施し、平成20年5月・6月には第2期にあたるサポート・ボランティアの募集と初級研修を実施した(写真-4、写真-5)。研修についても、現在、2年間で17名がサポート・ボランティアとして登録されており、希望者については、小学校の環境学習プログラムにおける指導・補助活動に参加している。

人材養成プログラムについても、環境学習プログラムと同様に、試行結果を次年度のプログラムに反映させている。具体的には、活動概要を紹介する事前説明会を本年度から新たに開催するとともに、募集期間の延長や、ホームページや情報誌等による情報発信を行った。また、内容に関しては森林育成や環境学習指導に対するサポート・ボランティア希望者のニーズを研修計画等に反映させることを現在計画している。

今後は通年に渡るサポート・ボランティアの募集と、参加者のニーズに合わせた各種研修を実施し、環境学習プログラムについて継続的なサポート活動を行う人材の養成につなげていく予定である。

6 環境学習プログラムおよび人材育成プログラム運営体制の整備

当公園における環境学習プログラム及び人材養成プログラムの将来的な運営は、環境学習プログラム運営事務局を設置して行う予定である(図-5)。事務局の主な活動としては、環境学習プログラムの企画・運営やサポート・ボランティアの募集、人材養成活動等を想定している。

運営事務局の構成は、公園の維持管理業務の受託者の職員、及び経験を積んだサポート・ボランティアを中心とする予定である。本年度から、運営事務局を試行的に設置し、実際に運営を行っていくことで、その仕組みを検証して、よりよい体制を整備していく考えである。

7. おわりに

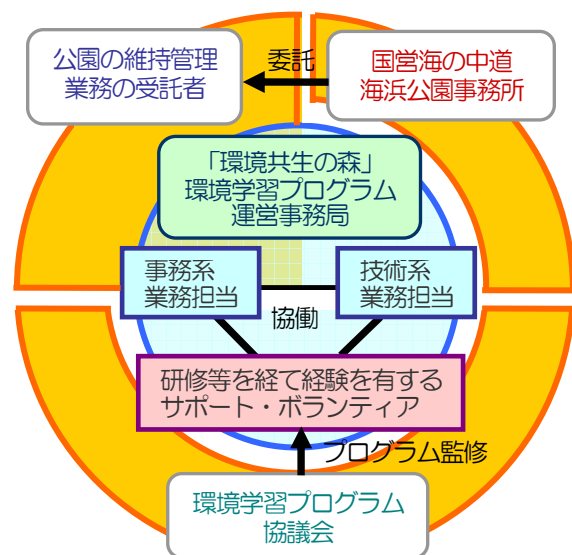
「環境共生の森」における環境学習プログラムの特徴は、「森の育成・管理との連携」「学校教育との連携」「市民との協働による運営」である。特に、長期的・継続的な学校教育との連携や、森林の育成管理との連携を前提にした環境学習プログラムは全国的にも新たな試みであると考えられる。



写真-4 人材養成プログラムの試行的実施①
(初級研修における環境学習プログラムの体験)



写真-5 人材養成プログラムの試行的実施②
(初級研修内での意見交換)



※環境学習プログラム協議会：「環境共生の森」における環境学習プログラム等を定期的に監修する機関

図-5 環境学習プログラム・人材養成プログラムの運営体制の開園時のイメージ

今後の課題としては、継続的な環境学習プログラムの実施、人材養成プログラムの本格始動、運営体制の確立等があり、今後は持続的なプログラム実行手法について、さらに検討を重ねる必要がある。

「環境共生の森」における環境学習プログラムの取組が、全国における先進事例となるべく、今後も開園に向けて努力していきたい。